

FRONTEO、人工知能によるビジネスデータ分析支援システム 「Lit i View AI助太刀侍」にダッシュボード機能を実装

ユーザーの要望に対応し、解析結果をグラフ化。進捗や推移をひと目で判別できる

米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がける株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏、旧UBIC）は、ビジネスデータ分析支援システム「Lit i View AI助太刀侍」（リット・アイ・ビュー エーアイすけだちざむらい、以下、AI助太刀侍）のバージョンアップ版を2017年2月1日に公開しました。

ユーザーの要望に対応し、実装された今回のバージョンアップ機能は、以下の通りです。

ダッシュボード機能

AI助太刀侍が解析したデータを期間や分析軸ごとにグラフへと変換し、数値を追うだけでなく、ひと目で分かるようにします。解析画面上からの簡単な操作で、設定した対象のスコアを直感的に判別しやすい円グラフや棒グラフで表示し、状況の把握と分析が容易になります。

従来もスコア分布からデータの読み取りや解析が可能でしたが、今回のダッシュボード機能の実装により、解析を行う同一対象データ（例：人、顧客、ビジネスドメイン等）の時間経過におけるスコアの推移が簡単に見られるようになります。グラフで表された状況の把握がスムーズに行えることで、経過の観察や注意、必要なアクションが取りやすくなります。

■画面イメージ



今後もFRONTEOは、ビジネスをはじめとした幅広い分野における、より良い「判断」を支援するため、日々の業務効率向上に貢献するツールの開発と提供を行っていきます。

■Lit i View AI 助太刀侍サイト

<http://www.kibit-platform.com/products/sukedachi/>

■KIBITについて

人工知能「KIBIT」は人工知能関連技術のLandscapingと行動情報科学を組み合わせ、FRONTEOが独自開発した日本発の人工知能エンジンで、人間の心の「機微」(KIBI)と、情報量の単位である「ビット」(BIT)を組み合わせ、「人間の機微を理解する人工知能」を意味しています。テキストから文章の意味を読み取り、人の暗黙知や感覚を学ぶことで、人に代わって、判断や情報の選び方を再現することができます。

【FRONTEO について】 URL: <http://www.fronteo.com/>

株式会社 FRONTEO は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年 8 月に設立。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。同事業で培われ、発展した独自の人工知能関連技術は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現。最近ではヘルスケアやビジネス・インテリジェンス、マーケティングなどの領域に活用し、事業の拡大を進めています。2007 年 6 月 26 日東証マザーズ、2013 年 5 月 16 日 NASDAQ 上場。資本金 1,764,965 千円（2016 年 9 月 30 日現在）。2016 年 7 月 1 日付けで株式会社 UBIC から現社名に変更しております。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社 FRONTEO 広報担当 西岡・池内

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345 Email: u-contact@fronteo.com